



#CES2023

BE IN IT

#CES2023



2023年1月

CES 2023 速報レポート

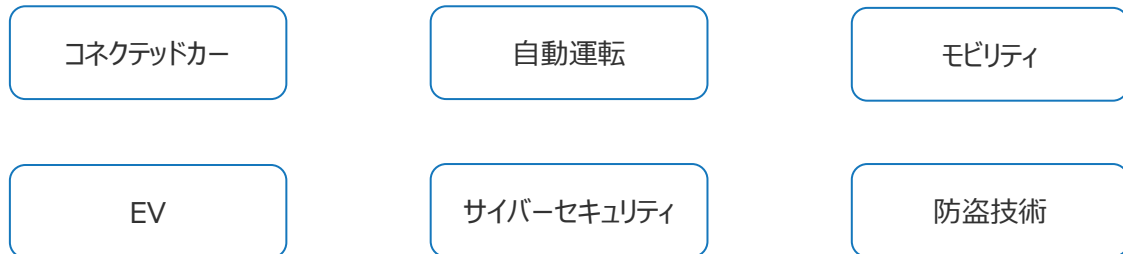
コンシューマー・エレクトロニクス・ショー

発行年月：2023年1月
レポート番号：1001-2023

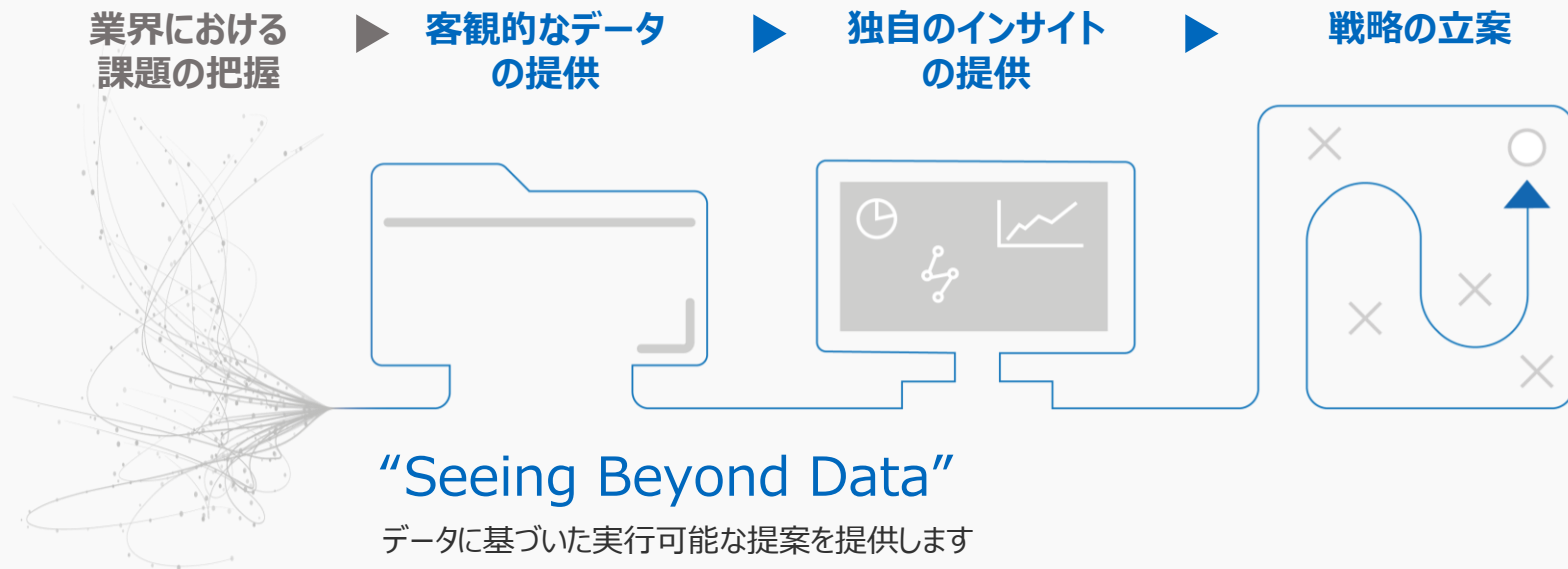
SBD Automotive について

1997年の創業以来、日本、欧州、米国、中国の拠点から自動車技術の調査・コンサルティングを提供しています。

専門分野:



提供サービス:



SBD Automotive のサービス



調査レポート



評価/
コンサルティング



詳細に関する
お問い合わせ

1

はじめに

CES 2023の紹介および例年からの変化

4～9ページ

2

基調講演

BMWとStellantisによる基調講演の概要

10～12ページ

3

重要ポイント

自動車業界の主なトレンドと主なイノベーションについての説明

13～28ページ

4

お問い合わせ先

29ページ



はじめに

コンシューマー・エレクトロニクス・ショーと速報レポートについて



目次



SBDについて



お問い合わせ先



CES 2023とは？

CESは、毎年米ラスベガスで開催されるテクノロジー展示会で、メーカーやサプライヤー、開発者らがカンファレンスやブースで最新のイノベーションを紹介する場です。世界174カ国から115,000人以上の来場者および3,200社以上の出展者が参加する世界的なトレードショーとなっています。

CESに展示される技術はコンシューマーエレクトロニクス分野が中心であるものの、近年は自動車分野の存在感も高まっています。自動車関連の技術は今や、CESの主要部門の一つとなっており、多くのキープレイヤーらが同イベントで最新の発表を行っています。

SBD AutomotiveからはCES 2023に、CEO、CCO、北米拠点ディレクター、プロダクションマネージャー、アナリストを含む計9名が視察のため現地参加しました。

レポートの主旨

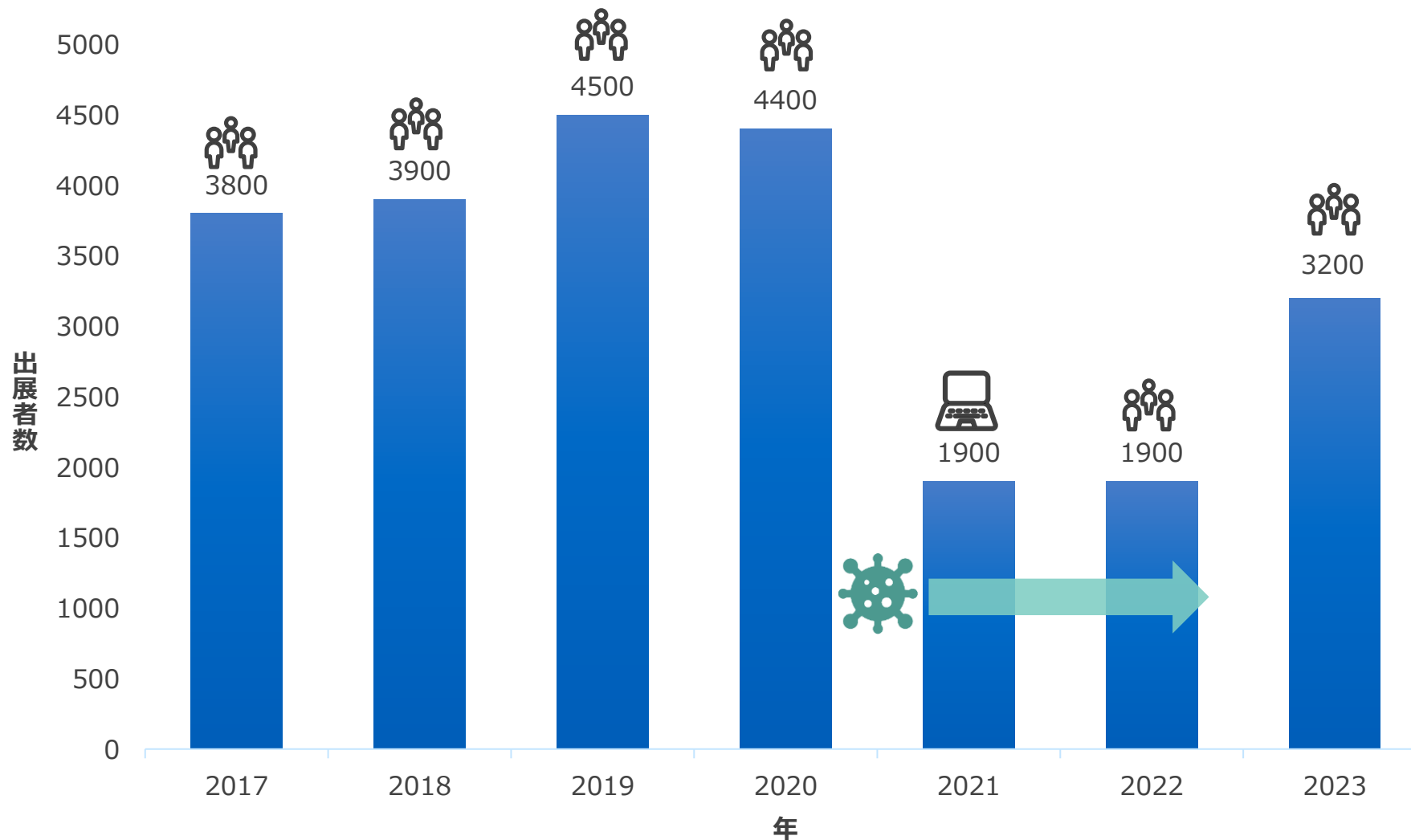
本書「CES 2023速報レポート」では、同イベントにおける自動車関連の主要トレンド、調査研究、製品、発表内容などをまとめています。





出展者数はコロナ禍前の水準に戻りつつある

CES出展者数



対面



オンライン

1月5日現在、**確定している出展者数は3,200社**

発表によると、西ホールの**自動車関連出展者数は300社以上**で、同ホールのチケットは完売

入場者数は予想を15%上回る**11万5千人**

CES 2023では、OEMがより実用的な製品を出展

出展者の多くがEV充電戦略、レベル2フリートのユースケース、SDV導入などを発表



2017

知覚機能を搭載した
「パーセプティブカー」



2018

パーソナライズ機能を
搭載した
「パーソナライズドカー」



2019

見えないところが
スマートな
「シャイテックカー」



2020

音を知覚する
「オーディトリーカー」



2021

拡張現実を搭載した
「オグメンテッドカー」



2022

没入感が得られる
「イマーシブカー」



2023

実用的な
「プラクティカルカー」

メディアの注目を集めるためのイベントコンセプトは別として、CES 2023の自動車メーカーブースの主なトレンドは実用的なアプリケーションを披露することであった。SAEレベル2/2+などの既存技術を搭載した車両に加えて、未来の電気自動車やソフトウェア・DEFINED・VEHICLEを実用に足る現実的な形に落とし込んだ車両などが展示された。



CES 2023 - 展示会場からのインサイト



2023 インサイト

クリックして表示



CES 2023で効率的に情報収集
するための各種コンテンツ



ポッドキャスト



プレレポート (0日目)



1日目



2日目



3日目

CES 2023 – フルレポート

本速報レポートよりもさらに詳細な内容を網羅した「CES 2023 フルレポート」

「CES 2023 フルレポート」では、同イベントの重要なトピックや発表をまとめ、詳細分析を提供するとともに、その実態と傾向を深く掘り下げて考察し、同イベントが自動車業界にもたらす影響について解説します。

SBDのイベントレポートシリーズは、自動車業界にとって重要なイベントの全容とその影響を包括的に把握することを目的としています。このレポートシリーズでは、年間を通じて開催されるCES 2023などの主要イベントを取り上げ、開催後約2週間以内を目途にレポート（英文）を発行するものです。

詳細・価格の
お問い合わせ



	速報レポート	フルレポート
ページ数	29	225以上
トレンド	✓	✓
カンファレンス	-	✓
イノベーション・アワード	-	✓
OEMの発表と分析	-	✓
サプライヤーの発表と分析	-	✓
スタートアップの発表と分析	-	✓





基調講演

BMWとStellantisの基調講演の概要



目次



SBDについて



お問い合わせ先

注目の基調講演：BMW

(未来の) 機能を多数備えたコンセプトカー「Dee」

BMWは基調講演の枠を使い、iVisionコンセプトを進化させたクルマを発表した。このコンセプトカーは2024年までに何らかの形で投入される予定である。その主な特徴は以下のとおり。

- **究極のコンパニオン**
 - 車両がユーザーの習慣に適應し、過去の目的地を学習する。
 - さらに、先を見越してナビの目的地や視聴するメディアを提案する。
- **最新のヘッドアップディスプレイ**
 - フロントガラス全体に広がるヘッドアップディスプレイ。
 - インフォテインメントディスプレイとメーターパネルの両方の機能を搭載。
- **複合現実対応のスライダー**
 - インフォテインメントディスプレイの操作機能の替わりとなるタッチコントロールをダッシュボードに統合。
 - アナログ、運転関連情報、通信システム、拡張現実投影、仮想世界／メタバースの5つのレベルでコンテンツを表示。
- **色変換技術 (e Ink)**
 - BMW iX Flowを進化させた技術で、コンセプトカーのボディカラーを変更可能。32色のカラーに対応。



注目の基調講演：Stellantis

電動化・自動化・ソフトウェア戦略に注力

StellantisのCEOであるCarlos Tavares氏は同社の将来ビジョンを紹介した。同ビジョンの複数の注力分野についてそれぞれ「RAM 1500 Revolution」と「Peugeot Inception」という2つのコンセプトカーを例に説明した。

■ ソフトウェア

- ユーザーが「一目で、ワンクリックで」ほとんどの作業を完了できる仕様を目指す。
- この仕様を新たな戦略計画「Dare Forward 2030」に沿って、STLA Brain、STLA SmartCockpit、STLA AutoDriveの3つのソフトウェアプラットフォームを使って提供する。
- StellantisはQualcommのDigital Chassisを採用し、コネクテッドサービスではAmazonと、スマートコックピットではFoxconnと提携する予定である。
- データおよびコネクテッドサービスの収益化に向けて新たな事業部門「Mobilisights」を設立する。

■ 電動化

- Stellantis車の販売について、2030年までに米国市場で50%、欧州市場で100%をBEVにする。
- 2030年までに75のBEVモデルを導入し、4つの標準プラットフォームを全社で展開する。
- Free2Moveブランドを使って充電インフラの導入を推進する。

■ コンセプトカー

- Peugeot車でステアリングホイールに代わるタブレット端末「Hypersquare HMI」コンセプトを公開（2026年予定）。
- RAM 1500 RevolutionにSTLAラージスクリーンプラットフォームを採用。





重要ポイント

CES 2023の注目すべきトレンド



目次



SBDについて



お問い合わせ先

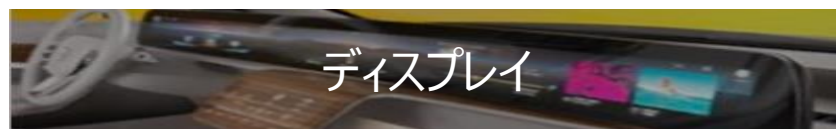
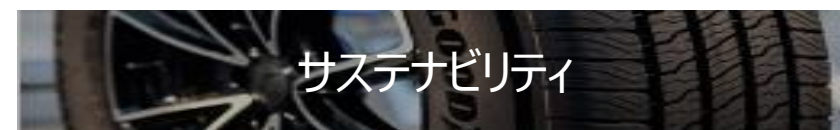
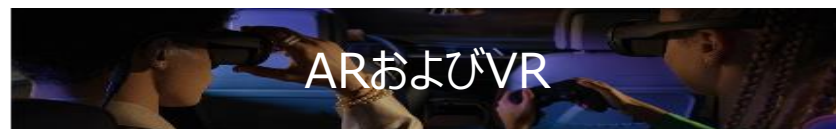


CES 2023の主なトレンド

中核的なトレンド



周辺のトレンド



2023

クリックして表示

電動化 (1/2)

ほとんどのOEMのフロアがEV展示に



RAM 1500 Revolution

- CES 2023では、OEM各社はBEVを中心とした数多くの新型EVの導入に力を入れていた。自動車関連の発表においても各社が電動化戦略の継続を強調していた点が際立っていた。
- StellantisはBEVピックアップモデル「RAM 1500 Revolution」を初公開した。現在はまだコンセプトカー段階であるが、近く量産化される見込みである。もう一つのコンセプトモデル「Inception」も公開された。
- Volkswagen、BMW、Afeela（SonyとHondaの新ブランド）も多様な機能を搭載した最新のEVコンセプトとプロトタイプを出展した。

EV充電器の利便性が焦点



Valeo充電ステーション

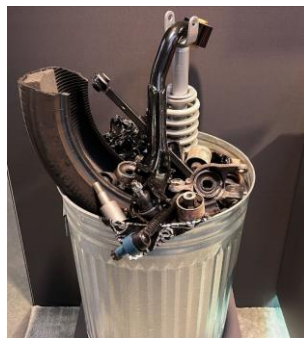
- CES 2023では、より簡単で便利なEV充電を追求したイノベーションもいくつか展示された。これは、CESのトレンドとしてますます注目度が高まっている。
- EVAR、Valeo、PanasonicなどのTier-1サプライヤーはスマートポールステーションソリューションを含むEV充電の最新技術や製品を展示した。
- また、AmazonはEV充電関連の機能を発表。ユーザーはAlexaを使ってEVの充電場所情報を検索し、EVgoで充電を開始することができる（EVgoのみ対応）。
- MapBox、TomTom、WirelessCarは充電時間を考慮して最適なルートを提示するEVルート案内機能を展示した。

電動化 (2/2)

サプライヤーが消費電力の低減でEV航続距離の向上を目指す



Magnaの「モーフィング・サーフェス」



ANCによる潜在的な軽量化 (Bose)

- 電気自動車を普及させるためには、EVバッテリーの航続距離が大きな課題となる。サプライヤー各社はEVの走行に必要な消費電力を抑え、航続距離を延ばす独自のソリューションを発表した。
- ZFはエアコンの使用を減らせるシートベルトヒーターを展示し、EVの航続距離を15%延ばすことができるとしている。Boseはアクティブノイズコントロール (ANC) 技術「Road Noise Control」を展示。これは遮音材の必要性を減らし、重量を最大20kg削減でき、航続距離を伸ばすことができる技術である。
- Magnaは「モーフィング・サーフェス」技術を発表した。この技術により、形状を変えられるMezzo Plusパネルを車両正面に配置して空力効率を向上させることができる。

OEMがEV充電ネットワークの構築を目指す



Mercedes-Benzが充電ネットワークを拡大

- ここ数年、CESでは電動化が大きなテーマとなっており、各分野で電動製品の充電インフラの拡充に関する発表が相次いだ。
- Mercedes-BenzはCESにおいて、独自のグローバルな高出力充電ネットワークを構築する計画を発表した。すでに北米で第一陣の建設を開始しており、最終的には全世界で1万基以上の充電ステーションを建設する予定である。
- John Deereは同社初の電動掘削機を発表し、車種ラインアップを電動化する方針を示した。同車両はKreiselのバッテリーを搭載している。

没入型デジタルキャビン

シングルSoCを搭載した一体型コックピットが主役



GarminのUnified Cabin Experience



Visteon Lightscapeのパノラマディスプレイ

- CES 2023の主要テーマの1つが没入感のある車内環境であった。展示されたキャビンは、大型ディスプレイ、マルチスクリーン、エンタテインメントゾーン、車載ゲームや拡張現実（AR）／仮想現実（VR）などの没入型体験が用意されているものが一般的であった。没入型デジタルキャビンへの注目は数年前からCESで見られたもので、CES 2023でもその傾向が継続して見られた。
- Garminはマルチゾーンでパーソナライズされた車内体験を提供する技術「Unified Cabin Experience」を展示した。
- BMWはコンセプトカー「i Vision Dee」で、一体型タッチディスプレイとフロントガラス全体に広がるヘッドアップディスプレイを展示した。
- Visteonはビデオ鑑賞やゲームなどのエンタテインメントに利用できるピラーツーピラーディスプレイを含む「Lightscape Panoramic Displays」を展示した。
- Harmanはメーターパネルの代わりとなる機能を搭載したAR対応ヘッドアップディスプレイのプレパッケージを展示した。





ソフトウェア・ディファインド・ビークル (SDV)

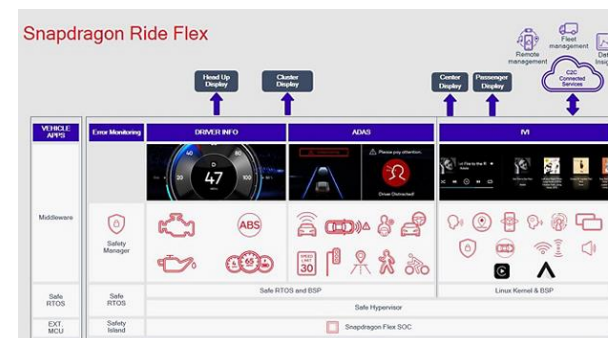
サプライヤーが市場投入間近のSDV向けツール およびプラットフォームを出展



Snapdragon Q Ride Platform

- Qualcommはシミュレーション環境で実際のセンサ映像を実行することで、必要な「実走」テストを削減できる「Q Ride Platform」を発表。
- 現在Boschのソフトウェア事業の大部分を運営しているETASは、OEMによるソフトウェア中心の機能開発を支援する統合ツールシステムを発表した。
- Continentalはソフトウェア機能の作成とテストに使用できる電子エッジコンピューティングプラットフォーム「CAEdge」を展示。一方、BlackBerryは既存のマスマーケットソフトウェア製品のイテレーションによる2つの重要な実現技術「QNX in Cloud」と「IVY」を出展。

ECU統合やソフトウェアアップデートを容易にする SoCやコントローラ製品が増加



Snapdragon Q Ride Flex

- Qualcommはデジタルコックピット、ADAS、自動運転 (AD) の機能を単一ハードウェア上に実装でき、重要な処理を同時にサポート可能な「Ride Flex SoC」をデジタルシャーシ製品群と共に展示した。
- Continentalは複数のドメインを制御可能な「x-Domainゾーンコントロールユニット」を実演。これにより、車両ネットワークのコストと複雑さをさらに軽減できる。
- その他、Visteon、Sonatus、Garmin、Magna、NXPなどのサプライヤーやソフトウェアベンダーがECU統合用に進化したプラットフォームを展示した。



ADASおよび自動運転

実用性が重視された自動運転デモ



Afeelaのプロトタイプ

- SAEレベル4車両を展示するサプライヤーやモビリティ企業もあったものの、CES 2023では自動運転へのアプローチがトーンダウンし、SAEレベル2+のような低いレベルの自動運転の実現に焦点が戻された。
- Afeelaのプロトタイプは、都市環境でSAEレベル2+、特定の条件下でSAEレベル3までの性能を発揮することを目標としている。
- Mercedes-BenzはCESにおいて、SAEレベル2の自動車線変更機能を導入するとともに、2023年にSAEレベル3のDRIVE PILOTシステムをネバダ州とカリフォルニア州に展開すると発表した。

サプライヤーはライダーの技術革新を強調



Volvo EX90ライダー

- CES 2023では、多数のライダー製作会社（20社以上）が最新の製品を自社ブースで出展した。
- Valeoは、2024年からStellantisの車種に採用される第3世代のライダー製品「SCALA 3 Lidar」を展示した。
- 今年もMEMSライダーが展示会の主流であり、MicroVision、AEye、Zvisionなど数多くのサプライヤーが製品を発表している。

AFEELA



拡張現実／仮想現実

確実なビジネスモデルを模索し続けるAR／VRソリューション



FIATのメタバースストア

拡張現実対応のHMIが成熟度を増している



HarmanのReady Vision

- CES 2023では、仮想現実の自動車分野への導入に関して、車内外を問わず3つのタイプのアプローチが見られた。
- Stellantisは、消費者がメタバース上でクルマを見て回れるFIATメタバースストアを出展した。
- holorideはCES 2023で「Holoride Retrofit」を発表した。これはメーカーや車種を問わず、車両にVRエンタテインメントを実装できるデバイスである。
- CES 2023では、様々なOEMやサプライヤーがナビ用途の拡張現実機能の実演を行った。
- BMWの「i Vision Dee」コンセプトカーは、フロントガラス全体に広がるHUDを搭載。このHUDで拡張現実に対応している。
- Harmanは、拡張現実（AR）を利用してターンバイターンルート案内など様々な運転関連情報をフロントガラスに表示できる「Ready Vision」を出展した。
- Visteonは拡張現実（AR）ナビを利用できる「SmartCore Gen 4」コックピットを出展した。

カメラ

ドライバーと車内を監視し、安全性と付加価値を向上させる革新的なモニタリング機能



Gentexのフルディスプレイ・ミラー



GarminのUnified Cabin

- CES 2023では、ドライバーと車内を監視するモニタリングソリューションが複数のサプライヤーから発表された。これらの技術はドライバー／車内モニタリングシステムを使って、ドライバーの眠気や脇見運転を検知する機能やその他の付加価値を提供する。
- Harmanはドライバーモニタリングシステム「Ready Care」を出展した。ドライバーの眼球の動きや認知負荷、生体情報などをモニターし、それをもとにドライバーの行動を分類して安全性向上のためにそのドライバーに合った車内対応を開始することができる。
- Xperi傘下のDTSは車内モニターシステム「AutoSense」を展示した。同システムは車内の乗員一人一人を識別し、その人の気分を把握して楽曲を推薦する機能などが実装されている。
- Magnaのドライバーモニタリングカメラはバックミラーのガラス面裏側に組み込むことができる。

ドライブレコーダー市場に大手企業が新たに参入



AmazonのRing Car Cam



BoschのRideCare Companion

- AmazonとBoschがそれぞれ前後2カメラ搭載のドライブレコーダーを発表し、同市場に参入した。
- AmazonのRingは、CES 2023で車内外用の2つのHDカメラを搭載したドライブレコーダーを発表した。オプションの「Ring Protect Go」を契約すると、LTE接続でライブ配信の視聴や録画映像のストリーミング配信が可能になる。
- Boschもライドシェアリング車用の「RideCare companion」を発表した。車内を録画するカメラを内蔵しており、緊急時にはLTE回線を通じてBoschの代理店に救援を要請することができる。



コネクティビティ

ゲーム業界向け製品を車載用に活用



NVIDIAのGeForce NOW

- いくつかのOEMがEV充電中にユーザーが楽しんだり、後部座席の乗員にエンタテインメントを提供できる車載用ゲームアプリケーションを発表。
- GMはCadillac Lyriqで概念実証段階の車載ゲームを展示。
- SonyとHondaのブランド「Afeela」のプロトタイプは車載ゲームを搭載。
- NVIDIAはHyundai Motorグループ、Polestar、BYDが同社のクラウドゲーミングサービス「GeForce NOW」を採用したと発表。
- また、Cariadもゲームを市場投入するビジョンを発表した。

サプライヤーは車載機能の商用化で新たな収益源を模索



HarmanのReady on Demandプラットフォーム

- Harmanはオーディオの機能やアップグレードをアプリに配信するための「Ready on Demand」プラットフォームを展示。ユーザーは購入後に様々なオーディオのアドオンをロック解除したり、アップグレードすることができ、これも収益化実現の一例である。
- Qualcommの「SnapDragon Digital Chassis」には「Snapdragon Car-to-Cloud」が含まれており、ユーザーはクラウドを通じて新しい機能やサービスを導入することができる。
- Boseは車載マイクからの音声をよりクリアにする高度な通話音声制御機能を出展した。ソフトウェア駆動型機能として、OTAアップデートによるFaaSアップグレードを想定している。

AFEELA



CARIAD



ディスプレイ

車内のデッドスペース活用がトレンド



Continentalのウルトラワイドディスプレイ



BMW i Vision DeeのフロントガラスHUD

- CES 2023では自動車分野を問わず、様々な分野で革新的なディスプレイがいくつか出展された。
- Continentalは2025年に発売予定のダッシュボード全体に広がるウルトラワイドディスプレイを紹介した。
- BMWはフロントガラス全体をHUDとして使うコンセプトを展示した。
- Visteonは映像やゲームに対応したピラーツーピラーディスプレイ「Lightscape Panoramic Display」を出展した。
- MarelliはピラーツーピラーHUD「Diorama Display」を出展した。

次期車種での実装が期待されるエクステリアディスプレイ



BMW i Vision Dee

- サプライヤーや一部の自動車OEMがコンセプトカーで車両の外装に配置するディスプレイを披露した。
- Afeelaのフロントとリアには様々なメッセージを表示することができるエクステリアディスプレイを配置。CESではAfeelaエンブレム、駐車許可証、天気情報、スポーツのスコアを含む様々なメッセージを表示していた。
- BMW i Vision Deeはヘッドライトとキドニーグリルがディスプレイ面を形成し、ドライバーに歓迎のメッセージを表示することができる。



AFEELA



エクステリア照明

最新のヘッドランプ技術、一部はすでに生産中



OPオフロード用のアダプティブヘッドライト



Marelliのプレーキライトスクリーン

- 複数のサプライヤーがスマート照明を発表した。この分野では安全性、パーソナル化、コミュニケーションがトレンドとなっている。
- Marelliはマトリクス調のヘッドライト設計を展示した。このヘッドライトは車幅を示したり、歩行者や自転車に危険を知らせたり、道路上にナビを投影できる。
- Plastic Omniumは車速対応型のオフロード用ヘッドライトを展示。スピードを出しているときはより遠くまで、逆にロックローリングのような低速走行では近くを照射する。
- KYOCERAは白色光と近赤外光の光軸を一致/一体化させた高性能なレーザーヘッドライト技術を展示。

地図

地図プロバイダーの異なる戦略

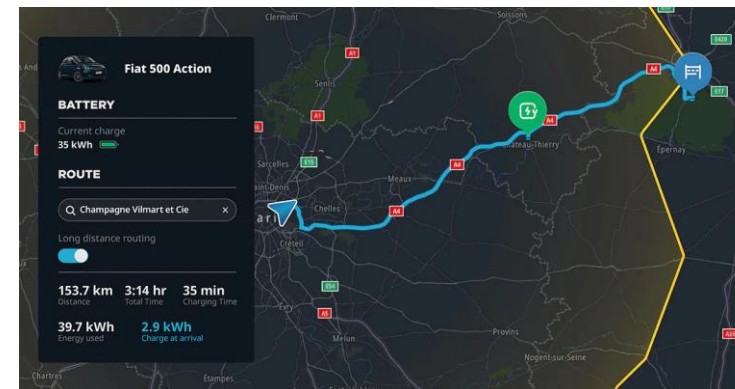


HERE - UniMapビジュアライゼーション



TomTom - 3Dマップビジュアライゼーション

EVの充電とルート作成を最適化するナビソリューション



TomTom - EVルート作成

- CES 2023では、主要な地図プロバイダーが車載用地図の提供に向けて異なる戦略を追求していることが明らかとなった。
- HEREはCES 2023で地図作成プラットフォーム「UniMap」を発表した。このプラットフォームは地図の作成、更新、利用においてより高い俊敏性と柔軟性を提供することを目的としている。さらに、ユーザーは独自のデータセットをプラットフォームと組み合わせることでカスタムマップを作成できる。
- Googleは、車載用OS「Android Automotive」を搭載した車両向けに独自のHD地図データを投入すると発表した。TomTomはAWS、Meta、Microsoftと提携し、検証済みのオープンな地図データを提供することを目的としたOverture Maps Foundationを設立した。
- Mapboxは「3D Live Navigation」システムを発表した。

- CESでは、EVの航続距離と充電量を考慮したナビ最適化機能や、充電ポイントを検索しやすくする取り組みについて、いくつかの発表があった。
- WirelessCarはEVの充電とルート作成を任意のパラメータで最適化する「Smart EV Routing」機能の実演を行った。
- Mapboxはバッテリー残量や充電場所を予測したり、充電料金の支払いを行える「Mapbox for EV」を発表した。
- TomTomは充電での立ち寄りを含めた最も効率的なルートとその総走行時間を表示するEVルーティング技術を出展した。

スマートホーム

スマートホームのエネルギー管理で 中心的な役割を果たすEV充電



Schneider Electricのスマートホーム管理システムとLucidのコネクテッドホームチャージャー

スマートホームデバイスの相互運用に向けた第一歩



Matterのロゴ

- Schneider Electricは太陽光発電とスマートホーム管理を組み合わせた統合スマートホームシステムを展示。全ての電線類が集約され、効率的な操作や管理が可能な電気パネルが付いた電気ボックスが特徴となっている。
- Samsungの「SmartThings Energy」インタラクティブアプリは、同社の家電製品に接続することで、電力、水道、天然ガスの使用状況をリアルタイムで監視できる。このアプリは利便性を高めると同時に、省エネを促進することを目的としている。
- Matterはスマートホーム機器の相互運用のための単一標準プロトコルを作成することを目的とした業界コンソーシアムで、将来的には他のスマート機器にも対象を拡大していく予定である。
- ほぼ全てのスマートホームデバイスメーカーがMatterに準拠したデバイスを展示していた。
- 現在、Matterに加盟している自動車メーカーはないが、近いうちに状況が変わる可能性が非常に高い。



サステナビリティ

持続可能性と効率性を追求し続けるタイヤ技術



Goodyear BetterFutureタイヤ

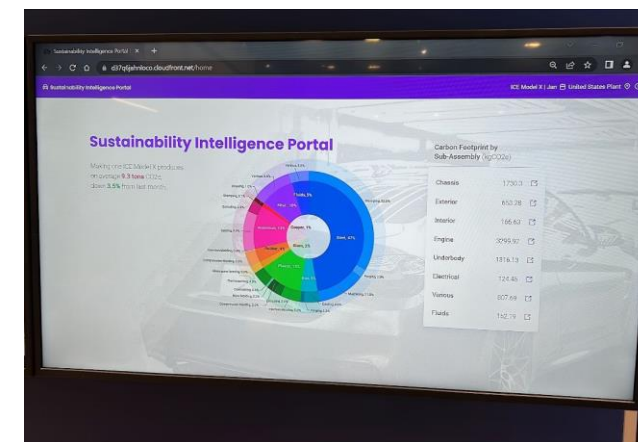
- Goodyearは90%がサステナブルな素材で構成された「BetterFuture」タイヤを出展した。再生ポリエステルや植物由来成分といったサステナブル素材を使用している。
- CarbonXはCES 2023で米国市場への参入を発表した。同社の特徴的な製品はカーボンマテリアル「CarbonX」で、シリカや従来のカーボンブラックに代わる材料としてタイヤ製造に取り入れることができる。この新素材は持続可能で高性能なタイヤの製造を目指すメーカーにとって環境に優しいソリューションとなる。



サプライヤーは環境に優しい部品とサプライチェーンで試行錯誤している



Opサステナブル素材



AWSサステナビリティプラットフォーム

- CES 2023では、製品やサプライチェーンに持続可能な素材や手法を取り入れる取り組みを紹介するサプライヤーが増えた。
- Plastic Omniumは自社のバージンプラスチックへの依存度を減らすために、再生プラスチックを50%使用した新素材を試作した。
- AWSはサステナビリティ・インテリジェンス・ポータルを展示した。このポータルサイトでは、サプライチェーン全体の排出量データを利用し、企業が採掘から再利用／リサイクルまでのサプライチェーンを最適化することで持続可能性を最大限に高めることができる。



音声アシスタント

VPAは出展されていたものの、中核テーマではない



AWS Brandon

- CES 2023では、VPAは出展されていたものの、例年のように大きな注目を集めることはなかった。
- Panasonic Automotiveは「SkipGen IVI」システムのアップデートを発表した。このアップデートにより、ユーザーはApple CarPlayを使用中に「Hey Siri」または「Alexa」と話しかけるだけで、SiriとAlexaに同時にアクセスすることができるようになる。
- BMW i Vision Deeは外部音声システムというユニークな機能を装備。BMWはこの機能をこのクルマの最も重要なインタラクション形態と見なしている。この機能により、駐車中やドライバーが車外にいるときでも、ドライバーと車間でシームレスなコミュニケーションが可能になる。

VPAはますますインフラと統合されるようになってきている



AlexaブースにあったEVgo

- 全米のEVgo充電ステーションにAlexaを組み込むことで、EVドライバーはコネクタタイプを指定して充電ステーションを簡単に検索し、ステーション到着までの推定時間と距離をすばやく判断することができる。
- さらに、EV充電事業者として初めてこのサービスを提供するEVgoは音声による決済が可能で、EVドライバーにシームレスで便利な体験を提供する。



SBD Automotive のお問い合わせ先

本書の内容、SBDのその他の調査・サービスについてのお問い合わせ

本書の内容、SBDのその他の調査・サービスについてお問い合わせは
SBD Automotive ジャパン (Postbox@sbdautomotive.com)
およびSBDのグローバル各拠点にて承っております。



Postbox@sbdautomotive.com



お問い合わせ

米国

英国

ドイツ

インド

中国

日本

各拠点のサポートエリアと担当窓口



日本、韓国、オーストラリア 日本オフィス

postbox@sbdautomotive.com
+81 52 253 6201

中国

中国オフィス
salesChina@sbdautomotive.com
+86 18516653761

英国、西・南欧

Luigi Bisbiglia
luigibisbiglia@sbdautomotive.com
+44 1908 305102

ドイツ、北・東欧

Andrea Sroczynski
andreasroczynski@sbdautomotive.com
+49 211 9753153-1

北米

Garren Carr
garrencarr@sbdautomotive.com
+1 734 619 7969